

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前，メールアドレス，添付資料を除き，HP等で公表
します。また，ユネスコスクールの質の確保の観点から，報告書の内容が一定の基準に満
たないもの，報告書が2年連続して未提出の場合には，ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので，あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 北九州市立 赤崎小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒 808-0004
福岡県北九州市若松区西小石町8番1号
 E-mail : akasaki-e@kita9.ed.jp
 Website : http://www.kita9.ed.jp/akasaki-e/
 児童生徒数：男子 107 名 女子 93 名 合計 200 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

未来につなげよう！ふるさと赤崎！

本校は平成15年度より、総合的な学習の時間の在り方について、子どもの活動の場を地域に求め、地域の人・こと・ものを環境・エネルギーからの視点で取り上げて、継続的にまた繰り返し体験活動を行い、地域で生きる人の生き方（願いや思い、行動）に触れ、自分のあり方を考える学習を積み重ねてきた。

年度ごとにカリキュラムを見直し、私たちの町「赤崎」のよさを地域に伝え、次世代につなげていく児童の育成に力を注いでいる。本年度のカリキュラムは以下の通りである。

総合的な学習の時間 赤崎プラン（学校カリキュラム）	
○ 地域の人や社会、自然に繰り返しかわる意識の連続・発展を目指した学習 ○ 地域の人・もの・ことに深くかわる探究的・協同的な学習	
単元名	
3年	「小石ちょうちん山笠をもりあげよう」 【郷土・環境】 自分たちの願いを込めた山笠を製作し、地域の伝統行事「小石ちょうちん山笠」に参加することで、地域への愛着と誇りに思う心を育む。 GT：保存会の方々 【他教科との関連】 社会「まちに伝わる祭りや行事」 道徳「心の花たば」（中4-⑤郷土愛）
	「生き生きおじいちゃん・おばあちゃん」 【福祉・健康】 地域に住む年長者を訪問する活動を通して、年長者の趣味や健康について知り、生きがいや楽しく生きることの大切さに気付かせ、自分の健康などについて考えることができる。 GT：地域のお年寄りの方々 【他教科との関連】 国語「すじ道を立てて話そう」 道徳「おじいさんとぼく」（中4-③家族愛）
4年	「ごみを出さない生活を目指そう」 【環境】 児童の生活に身近な空き缶のリサイクル活動を体験し、生活に使うものを再利用する仕組みを理解し、資源の有効利用の視点から、自分たちの生活の仕方を考える。 GT：コース・環境ミュージアムの方々 【他教科との関連】 国語「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」 社会「ごみはどこへ」
	「共に生きよう」 【福祉・健康】 盲導犬や点字等の学習、体験を通して体障がいをもった人たちが住みよい町にするために、自分たちができることを考える。 GT：視覚障害者 Sさん 【他教科との関連】 国語「調べて発表しよう」手と心で読む 道徳「かっぱの里 筑前若松」（中4-⑤郷土愛）
5年	「わたしたちの町に森を作ろう」 【環境】 産業廃棄物の処理について関心を高め、エコタウンの意義を知り、資源循環型社会の実現とエコ生活について考える。また、森林の働きを理解し、緑の回廊作りに参加する。 GT：森の専門家・環境局の方 【他教科との関連】 社会「森林と生きる」「くらしを支える情報」 道徳「世界の文化遺産」（高4-⑦郷土愛・愛国心）
	「いのちをみつめて」 【福祉・健康】 乳児保育所を訪ね、ミ二保育士体験をすることで、生命の大切さや自分の生き方を考える。 GT：深町どんぐりのもり保育所子ども、職員 【他教科との関連】 理科「人のたんじょう」 体育（保健）「病気の予防」（心の健康） 道徳「家族の紹介」
6年	「エネルギーと環境～赤崎から発信！今私たちにできること～」 【環境】 校区にある風力発電や若松電源開発について調べ、CO ₂ の発生をおさえた新エネルギーの大切さに気付かせ、地球環境について考え、自分たちにできることを実行する。 GT：電源開発の方々 【他教科との関連】 理科「電気の性質とはたらき」 家庭「くふうしよう 朝の生活」
	「高齢者とともに生きる」 【福祉・健康】 けやきの杜の方との交流を基に、高齢者福祉や老人介護について調べ、年長者とともに生きる社会の実現について考える。 GT：けやきの杜の入居者、職員 【他教科との関連】 社会「暮らしの中の政治」 道徳「言葉の力、わたしの思い」（高2-②思いやり・親切）

地域を知ることを通して、地域を大切にすることを養い、持続可能な地域社会の担い手の育成に取り組んでいる。

本年度の各学年の取り組み

3年生 「小石ちょうちん山笠をもちあげよう」

学習したことや体験を通して、地域を大切にしていきたいなどの思いを込めて山笠を作成した。当日は自分たちで作った山笠をかつぎ、地域の方々と一緒になって祭りを盛り上げていった。単元終了後の児童の感想には、「地域の人となかよくなってよかったです。」「地域の人といっしょにお祭りをして小石のよいところを見つけました。」という内容が多かった。この言葉には、児童が主体的に活動し、自信と地域を愛する心が育った姿が見受けられる。



4年生 「ごみを出さない生活をめざそう」

社会科「ごみはどこへ」の学習と関連を図り、清掃工場や空き缶リサイクル工場を見学して学んだことを基に、「ごみを出さないようにするにはどうすれば

今日空き缶を持って来てくれた人は・・・



よいか」学習してきた。そして、自分たちにできることは何か考え、全校児童を巻き込んだ空き缶リサイクル活動に取り組んでいる。空き缶集めの日、4年生児童はとても意欲的である。朝早くから登校し、友達と協力しながら、空き缶を持ってきてくれた人から空き缶を受け取り、名前をメモしてスタンプカードにスタンプを押ししたり、集めた空き缶のプルタブをはずして別々に袋に入れたりしている。そして、空き缶を持参した児童の名前を昼の校内放送で紹介し、他の学年の児童が継続的に協力してもらえるように呼びかけている。学習が終わった今でもなおこの活動は続けられている。またこの活動は、学校内だけでなく、保護者や地域と一体となった継続的な活動であり、地域にも資源回収の意識が定着している。これは、持続可能な社会の担い手を育むことを目標としているESDの視点からも意義のある活動である。



5年生 「わたしたちのまちに森をつくろう」

本単元は「エコタウンについて調べる」「わたしたちのまちに森をつくろう」の2部構成で学習を進めた。

初めに、エコタウンを緑の森にしようという計画があるという事実に出会わせるため、環境局の方に来校して頂いた。児童は、「緑の回廊構想」計画に賛同し、どんぐり集めを行うようにした。そこで、どん



ぐり拾いの体験活動を行った。児童の熱心な活動の結果、1万個を超えるどんぐりを集めることができたが、環境局の方がどんぐりが入った15個のバケツを提示し、「エコタウンを緑の森にするためには、こんなにたくさんのどんぐりが必要です。」と言われどうすればよいか考え「専門の方



に呼びかけ、どんぐりの苗づくりを手伝ってもらおう。」という思いをもつようになった。「手伝ってもらうためには、森を作ったらどんなよいことがあるか分かったら、手伝いたいと思うようになるよね。」という教師の提案を基に、学習問題「森



みなさんと一緒にどんぐりの苗木作りができてよかったです。これから1年と4か月お世話をよろしくお願いします。そして、1年4か月後、植樹会で一緒に苗木を植えて、わたしたちの町赤崎に森を作りましょう。(一部抜粋)

のよさや大切さを知らせ合い、森づくりに協力しよう。」を設定した。

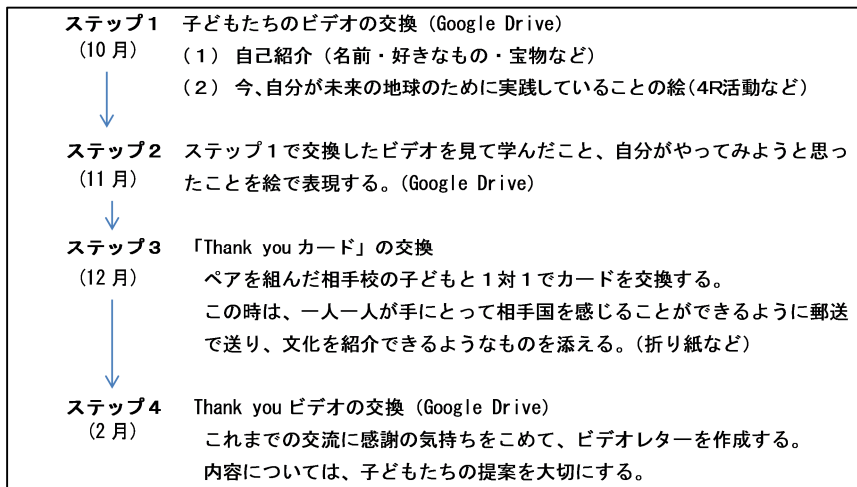
児童が集めたどんぐりで、環境局の方と苗木作

りを行った。苗木作りが終わった後、環境局の方から話をいただいた。児童は熱心に聞き、苗木の世話を意欲的に取り組もうとする姿勢やこれからの赤崎の町の希望が学習後の感想文からもうかがえる。そして、卒業後の1年4か月後、緑の回廊植樹地に児童が育てたどんぐりの苗木を地域の方や企業の方と、渡り鳥を誘導する緑の回廊になることを願って植樹する。

苗木作り後のM児のワークシートへの記述内容

○ 今日保存していたどんぐりを使って苗木作りを行いました。ぼくたちの先ばいの木のように大きくなってほしいので、お世話をしっかりしようと思いました。そして、ぼくたちの町が緑がいっぱいで、渡り鳥が来る町になってほしいです。今からそのことを考えるとワクワクします。

また、5年生はアメリカのESDの学校と交流を行った。



9月に総合的な学習の時間、また外国語活動の時間を使って早速ステップ1に取り組んだ。

まず、自己紹介のビデオ作りでは、外国語活動で1学期に「My name is～」・「I like～」の表現

を学習していたので、それを生かすことができた。紹介する好きなものは、子どもたちと話し合い、①好きな教科②好きな食べ物③その他の好きなもの、の三つに決めた。③では、サッカー、バスケットボール、空手などのスポーツから、アニメ漫画まで様々なものが紹介された。

次に、「未来の地球のために、今自分がやっていること」というテーマで絵を描いた。アメリカの友達に見てもらうので、なるべく絵だけで表現しようと試みたが、なかなか難しく多少は言葉での説明が入った。「給食で飲んだ牛乳パックをリサイクルしている」「買い物に行くときはマイバッグを持っていく」「エアコンより扇風機を使う」「ごみは分別して捨てる」「こまめに電気を消す」



「廃材を利用してものを作る」「ごみのポイ捨てはしない」「食べ残しはしない」「学校で空き缶やざつがみの回収をしている」・・・など様々な子どもたちの考えを絵で表現することができた。

ステップ1で作成したビデオをGoogle Driveにアップロードし、アメリカの中学校2校、小学校2校、日本の小学校3校で共有した。お互いの学校の生活の様子や取り組んでいるエコ活動を紹介し合うことで、その中から共通点や相違点を見つけ、新たな発見やさらなる意欲につなげることができた。

ビデオを見て、アメリカの子どもたちを身近に感じ、次は手書きのカードを郵便で送ろうということになった。内容を子どもたちに話し合わせると、

- ・ ひとりひとりの宛名を手書きで書く
- ・ 日本らしい絵を描く
- ・ 折り紙をおって添える

ことに決まった。



現在は、私も子どもたちもアメリカから送られてくる手紙を心待ちにしているところである。今後も計画されたステップを実行していく中で、子どもたちが異文化にふれ、環境保護というテーマで自分の意見を発信し世界とつながること、人とつながることに喜びや学びを感じ取ってほしいと考えている。それが、私がアメリカで学んだESDであり、これらを少しでも日本の子どもたちに伝えられることを願っている。

6年生 「エネルギーと環境～赤崎から発信！今私たちにできること～」

本単元は、「現在の日本の発電の様子」「電気エネルギーを有効に使うために、自分たちにできること」の2部構成で学習を進めた。

はじめに、もし電気がなくなるとできなくなることは何か、どんなことに困るかについて話し合った。そして理科「電気の性質とはたらき」との関連を図り、手回し発電機による発電の体験につないだ。

手回し発電機による発電を体験した児童は、「自分たちが発電した電力がちょうど蛍光灯1本分くらいになる。」「でもずっと回しておかないと、電気が消えてしまう。」ということを理解することができた。そんなにたくさんの電気はどこでどうやって作っているのか。」と問いかけると、「太陽光発電で電気を作っているのではないか。」「近くにある電源開発会社で電気を作っているのではないか。」



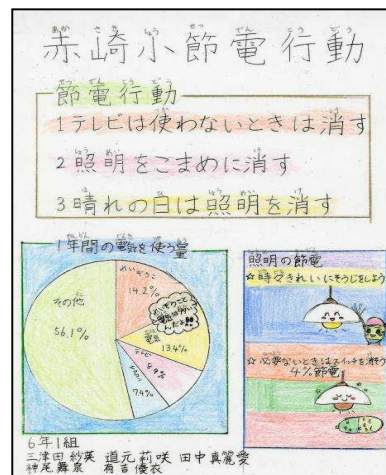
という声が上がったので、「電源開発会社に見学に行って調べてみよう。」という課題を設定し、電源開発会社見学へ意欲をもたせ、次時の学習につないだ。

電源開発会社見学後は、感想や調べてみたいことを出し合い、日本の発電方法や電源開発会社の方の電気に対する思いや願いについて調べて発表し、日本の発電方法の特徴について話し合った。その際、電源開発会社と連携を図り学

習を行ったので、発電の仕組みについてより一層理解を深めることができ、電源開発会社の方の電気を作る苦勞を知ることができた。また、インタビューを通して思いや願い（現在、自然のことを考え、自然エネルギーへの変換に努めているが現実的に難しい。だからみんなによい節電方法を考えてほしい）も聞くことができた。そこで自分たちにできることはないか考えさせ、第2部の学習へとつないでいった。

学級全体で話し合ったり、全校児童にアンケートを取ったりして、「赤崎小 節電行動」を決めていった。そして決まった節電行動が、右のポスターやステッカーに記しているものである。決まった節電行動を電源開発会社の方へ発表し、価値づけてもらったので、児童は意欲的に、ポスターやステッカーづくりに意欲的に取り組むことができた。

本単元では、伝え合いの場を3つ設定した。これらの伝え合う活動を通して、児童は、節電に対する意識を高めることができ、自己の生き方を考えることができるようになった



(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 (

)